

史跡モニュメント「加茂歴史の小径(こみち)」 新たに2基設置

当商工会議所では、歴史を活かしたまちづくり事業の一環として加茂の奥深い魅力を紹介する史跡モニュメント「加茂歴史の小径(こみち)」を市内に設置しています。

これまでに6基設置してきましたが、新たに青海神社(亀の噴水脇)と大昌寺の2基が完成し合計8基となりました。

史跡モニュメント「加茂歴史の小径」を巡り、昔の風景を想像しながら加茂のまちを歩いてみませんか？

慶応四年(1868)五月十九日、長岡落城つぎのすけ後、同二十一日に長岡藩総督 河井継之助をはじめとする長岡藩兵は旧加茂町の庄屋、皆川邸を宿陣地としました。

その皆川家には「これから良い世の中になるよ」と話した河井継之助の言葉が代々語りつがれています。

この噴水は明治四十四年(1911)五月、皆川家の子孫である幾美きみと登与とよが連名で青海神社に寄進したものです。

青海神社の御祭神である椎根津彦命しいね つひこのみことが亀じんむに乗って神武天皇東征の際に、大和へ導いたとされていることから亀の形になったと言われています。



戊辰戦争の際、桑名藩兵や旧幕府兵らが宿陣地とした大昌寺。文書によれば「当町は軍勢四千人余り止宿ししゆく。当寺は初めより桑名藩の御宿」とあります。

裏山の墓地内には戊辰戦争 殉難者じゆんなんしやの墓石が7基残っています。

また、米沢藩士の雲井龍雄が奥羽越列藩同盟軍の士気を鼓舞するために「討薩ノ激とうさつのげき」を起草した寺院でもあります。

この「討薩ノ激」は同盟軍によっていくつか発行された檄文の中でも最も格調が高いものです。